

パンで結ぶ今治の絆！ 商店街再生プロジェクト



支援機関 えひめ産業振興財団
支援内容 事業承継における業種転換

事業者 **有限会社よしだや商店**

代表者名 吉田 真里
業種 焼き菓子とパン製造販売
所在地 今治市本町3丁目1-28
設立 昭和41年10月19日
資本金 350万円

支援に至る経緯

創業151年の呉服店の承継者として、今治港から徒歩3分の本町商店街に位置する呉服店舗跡を、アンテナショップとして再活用することを計画している。この店舗は、周辺の商店を巡る拠点として機能し、地域住民やしまなみ海道を訪れる県外客に向けた新たなランドマークとなる焼き菓子&パン店として再創造していく。これにより、古き良き今治の商店街の魅力を、港や城の風情、歴史、文化、音楽（ジャズ）、そして食文化といった現代のニーズに合わせて提供していく。私たちはこのプロジェクトを推進し、事業承継について、事業承継・引継ぎ支援センターのサブマネージャーに相談を開始した。



支援の内容

①代表者交代による手続き

代表者交代と事業目的追加の登記スケジュールと変更のアドバイス

②新たな業種転換による資金調達

店舗改修や電熱オープン導入の初期投資が高額になる業界であるため、日本政策金融公庫と地元金融機関での協調融資の事業計画書の作成支援

③日本標準産業分類における新たな小分類へ進出する中小企業者等を対象とする地域密着型ビジネス助成事業の計画書の作成支援として、解決する地域課題と活用する地域資源のビジネスモデルの構築

⑦解決する地域課題

今治市商店街の衰退と後継者問題を地域課題として設定し、商店街数の推移動向や都道府県別後継者不在率の外部環境分析と情報提供

⑧活用する地域資源

今治市商店街は今治城から北へ広がり、寺町まで平行に伸びている八つの街路の歴史的な背景がある地域資産がある。また旧市街地で商いを続けている30～50代の2代・3代目の事業主（人材資源）とタッグを組み、当店が「商店と商店を繋ぐ」回遊スタート地として商店街の活性化に取り組む。

⑨その他の記載事項

類似事業の有無（その事業との違い）、市場規模（ターゲット層、顧客数、対象エリア、市場の状況、将来性）、販売方法等（顧客確保の方策、販売価格、販売方法、PR方法）、事業スケジュール、損益計算及びキャッシュフロー計算書作成のアドバイス

支援の効果

協調融資による資金調達と地域密着型 ビジネス助成事業に採択

令和6年3月に融資申し込みを行い、日本政策金融公庫と地元金融機関から資金調達の準備ができた。7月には地域密着型ビジネス助成事業が採択となり、10月29日に100年以上にわたり地域に愛されてきた呉服店「よしだや商店」は、この伝統ある場所でパン屋として新たなスタートを切った。現在は週4日(火・水・土・日曜)の営業であるが、地域住民を中心に完売状態となっている。

今後の展開

瀬戸内をテーマとしたメニュー開発と 地域のビジネスパートナーとも連携

商店街周辺で事業をしている方々及び街の活性化に力を入れる仲間(約40名)と一緒に瀬戸内をテーマにした新メニュー開発も開始し、今後は更に各商店の目玉商品作りをサポートし、当店で併せて販売することで商店を回遊しやすい仕組みを作っていく計画である。また、地域のビジネスパートナーとも連携し、商店街の活性化と事業承継問題の解決に取り組むことで、地域の経済基盤を強化し、若い世代が地元で活躍していく環境や体制を整えていく。



活動を振り返って

review

事業者の声

代表取締役 吉田 真里



「商いとは買ってもらう人に養われてると思い、正直に、誠実に」を社訓に「よしだや」を承継したのですが、実際経営をするにあたり分からないことが多くあり、客観的な業界の分析や具体的な事務処理等を玉井先生からアドバイスをいただき、大変助かりました。古き良き今治の資源を活用し、業種は変われど、お客様に笑顔になってもらえるお店作りや商店街の活性化など、地域に少しでも貢献できればと思っています。

今後も財団の先生方に相談をし、客観的なご意見・ご指導をお願いしたいと思っています。

支援者の声

えひめ産業振興財団
ジェネラルマネージャー
玉井 裕司



愛媛県内で10万人以上の人口数を抱える松山・新居浜・西条・今治市のうち、今治市は高齢化率が一番高いエリアとなっています。事業後継者にとって商店街の魅力不足等を抱えている中で、老舗呉服店から新たな町のランドマークとなる焼き菓子&パン店を開設され、商店街の活性化と後継者問題の解消に繋がる拠点として活躍してもらえることに期待をしています。